2024 年 7 月 8 日
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

海外派遣留学(2022 年度出発)による学生の能力及び行動特性の変化について

一橋大学では，海外の協定校に派遣留学をした学生を対象として，JAOS（海外留学協議会）が提供する『留学アセスメントテスト』を利用して，派遣留学により「グローバル環境で必要とされる能力の変化」と「行動特性の変化」を把握している．今回の分析対象者は，2022年度に留学を開始した148名のうち，留学前後のテストに回答した141名（2022年夏出発123名，2022年冬出発18名：回答率95.27%）である．回答者の所属学部内訳は，商学部44名，経済学部26名，法学部19名，社会学部47名，大学院生5名であり，学年は2年生3名，3年生112名，4年生21名，修士1年生2名，修士2年生3名，性別は女性81名，男性60名であった．なお，回答者141名のうち4名は一橋大学に既に留学生として在籍している学生を更に海外に派遣している．回答者の派遣留学前の平均GPA（自己報告）は 3.63（標準偏差 0.31，最小値2.84，最大値4.30），派遣留学前の英語能力については，IELTSの受験歴がある77名の平均スコア6.71（標準偏差0.54，最小値6.0，最大値8.0），TOEFL IBTの受験歴がある74名の平均スコア95.49（標準偏差11.08，最小値68，最大値119）であった．

派遣留学先を表 1 に示す．回答者の約半数がアメリカやイギリスといった英語圏にある大学，4 割程度が欧州の大学であり，アジアの大学は 8%程度に留まっている．表 2 は留学を通して向上を期待する外国語とそのスキルに関する（複数）回答で，ほぼ全員（97.87%）が英語の向上を期待し，特に向上を期待するスキルはスピーキング（99.29%）およびリスニング（69.50%）であった．表 3 で回答者の過去の外国滞在経験とその主な目的をみると， 34%程度が過去に一か月以上の海外滞在経験があり，そのおよそ 7 割は「親の仕事」による海外滞在、1 割は本学での語学・文化研修に参加した学生であった．

表 4，表 5 と図 1，図 2 には，派遣留学前後の『留学アセスメントテスト』の平均値（M）および標準偏差（SD）と，平均の差が有意であるかについての t 検定の結果を示している．なお，表中の Cohen d 列に示した効果量は，0.8 以上であれば大きな変化，0.5 から 0.8 は中程度，0.2 以下は小さな変化を意味する．Cohen d効果量はいずれも 0.5 を下回り，非常に大きな変化であるとはいえないものの，表 4 および図 1 に示される「グローバル環境で必要とされる能力」のうち，「コミュニケーション」領域における「自己開示力」と「主張力」,「プレゼンテーション力」において，「問題解決能力」領域における「情報収集力」において，「グローバルマインド」領域における「チャレンジ力」，「成功への熱意」において，統計的に有意な上昇がみられた．表 5 および図 2 に示される「行動特性の変化」については，「主張」の有意な向上が認められた一方，「楽観」において有意な低下が認められた．

以上より，派遣留学を通して，積極的に行動する力が高められたこと，異文化での生活が自己表現や他者とのコミュニケーション能力の向上に寄与したことが明らかとなった．また，新しい環境においてさまざまな問題に直面する中で，対人関係において自己の意見を積極的に主張するようになり，物事を現実的かつ慎重に捉える認識が形成されたと推察される．

表6a-dは，海外滞在経験の有無による留学前後の変化を示している．留学アセスメントテストの各領域に対して，海外滞在経験の有無による留学の効果の差を検討した結果，どの次元に関しても有意な差が認められず，海外滞在経験によって留学の効果が有意に異なるとはいえない．しかし，海外滞在経験別での留学の効果をみると，滞在経験なし群では，留学による変化が大きい能力もあった．

表 7 は，留学前に目標として設定したコミュニケーション能力別に，能力の変化を示している．各コミュニケーション能力に対して，その能力を目標として設定したか否かによる留学の効果の差を検討した結果，どの能力に対しても有意な差がなかった．目標として設定した能力別での留学の効果をみると，傾聴力と主張力において，その能力を目標とした群で能力の向上が見られた．

表 1　派遣留学先

		割合
英語圏	**合計**	49.65%
アメリカ		22.70%
イギリス		16.31%
オーストラリア		8.51%
カナダ		2.13%
ヨーロッパ	**合計**	42.55%
フランス		9.22%
ドイツ		9.22%
デンマーク		4.26%
ベルギー		4.26%
オランダ		3.55%
オーストリア		2.84%
フィンランド		2.84%
スイス		2.13%
スウェーデン		2.13%
イタリア		1.42%
ブルガリア		0.71%
アジア	**合計**	7.80%
韓国		2.84%
台湾		1.42%
インドネシア		0.71%
シンガポール		0.71%
タイ		0.71%
中国		0.71%
香港		0.71%

表 2　向上を期待する外国語と外国語スキル（複数選択可）

向上を期待する外国語	**割合**
英語	97.87%
フランス語	12.06%
ドイツ語	12.06%
中国語	2.84%
韓国語	2.84%
タイ語	0.71%
スペイン語	2.84%
その他	7.09%
向上を期待するスキル	**割合**
リスニング	69.50%
スピーキング	99.29%
リーディング	34.04%
ライティング	49.65%
あてはまるものはない	0.00%

表 3　過去における 1 ヶ月以上の海外滞在経験とその主な目的

海外滞在経験	**割合**	**海外滞在目的**	**割合**
あり	34.04%	親の仕事	70.83%
		学位取得を目的とした留学	2.08%
		交換留学や単位取得を伴う留学	6.25%
		一橋大学の語学・文化研修	10.42%
		その他の語学・文化研修	4.17%
		旅行	2.08%
		その他	4.17%
なし	65.96%		

2024 年 7 月 8 日
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

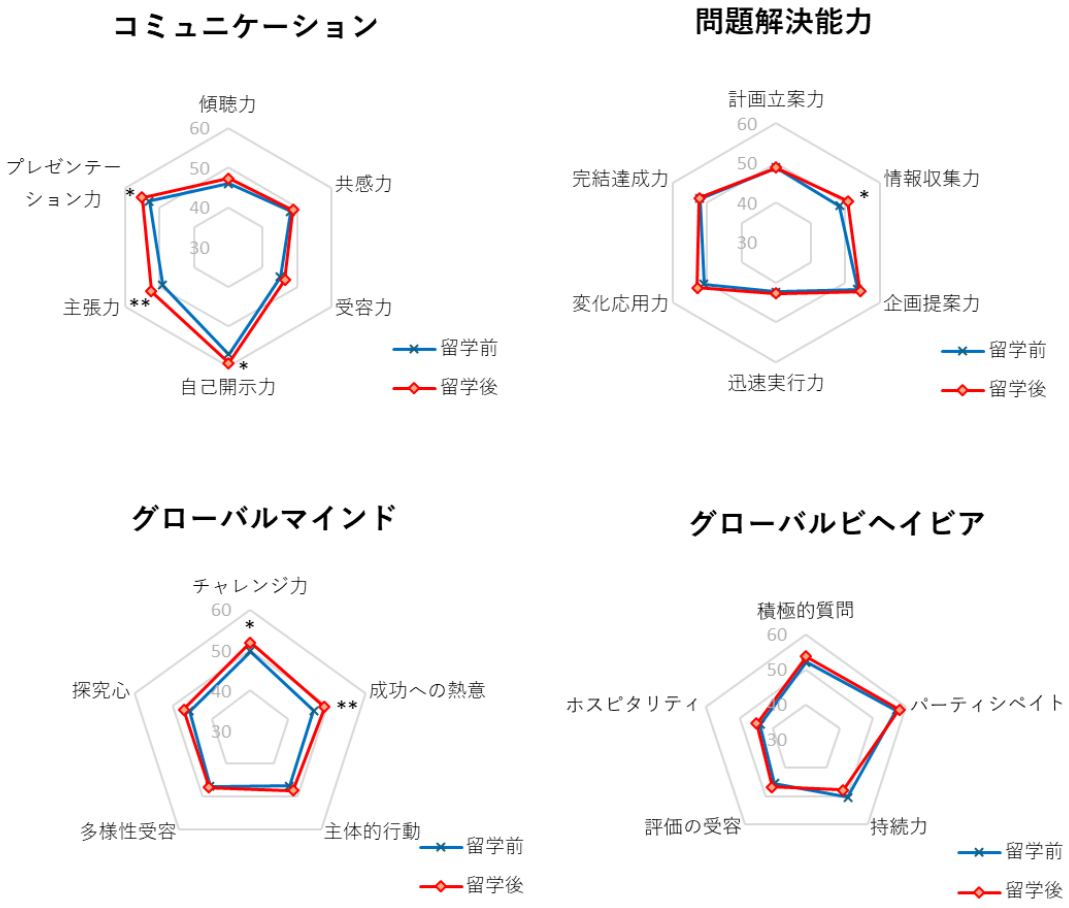
表 4　グローバル環境に必要とされる能力の変化

	留学前		留学後				
	M	*SD*	*M*	*SD*	*t*		Cohen *d*
傾聴力	45.98	8.82	47.31	8.89	1.58		0.13
共感力	48.01	9.68	48.84	9.59	0.84		0.07
受容力	45.01	8.37	46.45	8.45	1.60		0.13
自己開示力	56.96	10.13	59.16	10.67	2.11	*	0.18
主張力	49.07	10.81	52.34	11.15	3.05	**	0.26
プレゼンテーション力	53.02	9.22	55.03	9.52	2.16	*	0.18
コミュニケーション平均	49.68	6.24	51.52	6.23	2.91	**	0.25
計画立案力	48.84	10.57	48.85	9.93	0.01		0.00
情報収集力	48.39	10.37	50.83	11.00	2.27	*	0.19
企画提案力	53.59	8.11	54.42	7.77	1.01		0.08
迅速実行力	42.37	7.78	42.76	7.84	0.48		0.04
変化応用力	50.93	9.37	52.77	8.84	1.86		0.16
完結達成力	52.12	11.49	52.27	10.64	0.12		0.01
問題解決能力平均	49.37	5.23	50.32	5.03	1.73		0.15
チャレンジ力	49.73	9.27	51.80	8.54	2.32	*	0.20
成功への熱意	46.52	9.64	49.35	10.17	2.79	**	0.23
主体的行動	46.64	10.84	48.13	10.76	1.31		0.11
多様性受容	46.91	8.37	47.25	8.73	0.38		0.03
探究心	45.80	8.04	47.28	8.09	1.70		0.14
グローバルマインド平均	47.12	6.05	48.76	6.43	2.50	*	0.21
積極的質問	52.08	8.62	53.68	8.71	1.79		0.15
パーティシペイト	57.03	9.48	57.86	9.64	0.86		0.07
持続力	50.27	11.72	47.84	12.48	-1.96		0.17
評価の受容	45.44	7.50	46.68	8.54	1.43		0.12
ホスピタリティ	43.85	8.39	44.85	8.52	1.20		0.10
グローバルビヘイビア平均	49.74	4.27	50.18	4.22	1.09		0.09

注：　**は 1%水準，*は 5%水準でそれぞれ有意であることを示す.

2024 年 7 月 8 日
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

図 1　グローバル環境に必要とされる能力の変化を表すレーダーチャート



注:　　**は 1%水準，*は 5%水準でそれぞれ有意であることを示す.

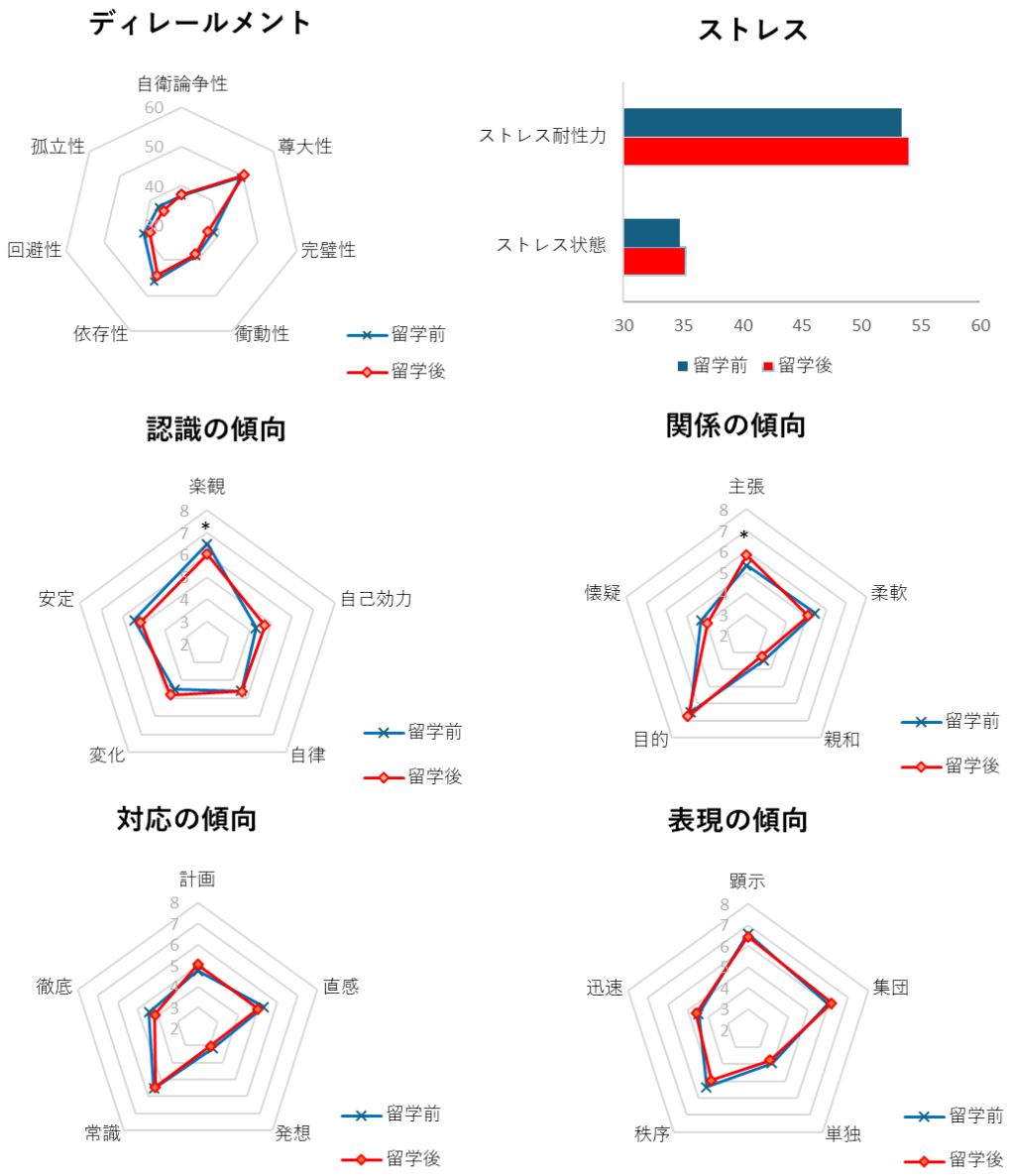
表 5　ディレールメント，ストレス，行動特性の変化

	留学前		留学後				
	M	*SD*	*M*	*SD*	*t*		Cohen *d*
ディレールメント							
自衛論争性	37.42	7.07	37.74	8.22	0.41		0.03
尊大性	49.27	7.36	50.26	7.84	1.36		0.11
完璧性	38.39	8.72	37.00	9.44	-1.51		0.13
衝動性	38.65	8.16	38.33	9.61	-0.38		0.03
依存性	45.81	8.98	44.20	9.48	-1.75		0.15
回避性	39.84	8.30	38.27	8.53	-1.77		0.15
孤立性	37.41	10.67	35.86	12.49	-1.47		0.12
ストレス							
ストレス状態	35.24	5.00	34.70	5.78	-0.98		0.08
ストレス耐性力	54.08	9.00	53.40	9.92	-0.66		0.06
行動特性プロフィール							
認識の傾向							
楽観	6.48	2.06	6.02	2.17	-2.01	*	0.17
自己効力	4.30	1.95	4.70	2.10	1.75		0.15
自律	4.59	2.09	4.64	2.00	0.26		0.02
変化	4.52	2.05	4.82	1.94	1.42		0.12
安定	5.44	2.05	5.14	1.94	-1.42		0.12
関係の傾向							
主張	5.34	2.17	5.83	2.28	2.35	*	0.20
柔軟	5.42	2.22	5.08	2.33	-1.60		0.13
親和	3.44	2.10	3.23	2.06	-0.90		0.08
目的	6.53	2.11	6.74	2.06	0.90		0.08
懐疑	4.27	2.05	3.94	2.05	-1.66		0.14
対応の傾向							
計画	4.73	1.98	5.03	1.84	1.54		0.13
直感	5.31	1.98	5.00	1.84	-1.54		0.13
発想	3.18	2.03	3.03	2.05	-0.72		0.06
常識	5.55	2.01	5.44	1.97	-0.55		0.05
徹底	4.44	2.14	4.13	2.08	-1.44		0.12
表現の傾向							
顕示	6.59	1.87	6.45	2.16	-0.64		0.05
集団	5.99	2.07	6.17	2.23	0.84		0.07
単独	3.95	2.07	3.77	2.23	-0.84		0.07
秩序	5.35	1.99	4.95	2.17	-1.69		0.14
迅速	4.48	2.03	4.59	2.00	0.53		0.04

注:　*は 5%水準で有意であることを示す.

2024 年 7 月 8 日
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

図 2　ディレールメント，ストレス，行動特性の変化を表すレーダーチャート



注:　*は 5%水準で有意であることを示す.

2024 年 7 月 8 日

森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

表 6a　海外滞在経験別のコミュニケーション能力と問題解決能力の変化

コミュニケーション能力

	海外滞在経験	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
傾聴力	あり(*n*=48)	46.89	7.67	48.20	8.23	0.02	1.31
	なし(*n*=93)	45.52	9.42	46.85	9.27		1.33
共感力	あり(*n*=48)	46.24	9.88	48.80	11.10	-2.62	2.56
	なし(*n*=93)	48.92	9.56	48.86	8.82		-0.06
受容力	あり(*n*=48)	43.79	8.50	46.15	9.96	-1.39	2.35
	なし(*n*=93)	45.64	8.32	46.60	7.67		0.97
自己開示力	あり(*n*=48)	55.29	9.16	57.90	10.71	-0.61	2.61
	なし(*n*=93)	57.81	10.59	59.82	10.71		2.00
主張力	あり(*n*=48)	48.78	9.03	50.13	11.16	2.90	1.35
	なし(*n*=93)	49.22	11.71	53.48	11.09		4.26 ***
プレゼンテーション力	あり(*n*=48)	52.47	8.45	54.00	9.61	0.72	1.53
	なし(*n*=93)	53.30	9.68	55.56	9.54		2.25
コミュニケーション平均	あり(*n*=48)	48.91	5.81	50.86	6.70	-0.16	1.95
	なし(*n*=93)	50.07	6.49	51.86	6.02		1.79 *

問題解決能力

	海外滞在経験	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
計画立案力	あり(*n*=48)	49.27	9.82	49.87	9.84	-0.89	0.60
	なし(*n*=93)	48.61	11.03	48.32	10.04		-0.29
情報収集力	あり(*n*=48)	49.09	10.52	50.83	9.83	1.07	1.73
	なし(*n*=93)	48.03	10.39	50.83	11.66		2.80 *
企画提案力	あり(*n*=48)	53.63	6.90	54.36	7.60	0.15	0.73
	なし(*n*=93)	53.57	8.74	54.45	7.94		0.88
迅速実行力	あり(*n*=48)	41.34	8.27	43.26	6.60	-2.33	1.93
	なし(*n*=93)	42.90	7.55	42.50	8.47		-0.41
変化応用力	あり(*n*=48)	51.00	9.96	53.35	9.04	-0.79	2.35
	なし(*n*=93)	50.90	9.16	52.46	8.82		1.57
完結達成力	あり(*n*=48)	51.18	10.57	51.28	10.96	0.08	0.10
	なし(*n*=93)	52.60	12.02	52.77	10.56		0.18
問題解決能力平均	あり(*n*=48)	49.25	4.62	50.49	4.67	-0.45	1.24
	なし(*n*=93)	49.44	5.57	50.22	5.26		0.79

注:　　***は 0.1%水準，*は 5%水準でそれぞれ有意であることを示す．留学の効果の差は，海外滞在あり群となし群を比較して，両群の留学の効果が異なるかを調べたものである．

2024 年 7 月 8 日
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

表 6b　海外滞在経験別のグローバルマインドとグローバルビヘイビアの変化

グローバルマインド

	海外滞在経験	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
チャレンジ力	あり(*n*=48)	48.86	9.34	50.63	7.97	0.46	1.77
	なし(*n*=93)	50.18	9.30	52.41	8.84		2.23
成功への熱意	あり(*n*=48)	46.20	8.40	47.83	10.02	1.81	1.64
	なし(*n*=93)	46.68	10.30	50.13	10.27		3.45 *
主体的行動	あり(*n*=48)	45.22	11.82	48.34	10.13	-2.48	3.12
	なし(*n*=93)	47.38	10.36	48.02	11.18		0.64
多様性受容	あり(*n*=48)	45.45	8.19	47.19	10.19	-2.13	1.75
	なし(*n*=93)	47.66	8.45	47.28	7.98		-0.38
探究心	あり(*n*=48)	44.85	9.00	47.81	8.23	-2.24	2.96
	なし(*n*=93)	46.29	7.55	47.01	8.10		0.72
グローバルマインド平均	あり(*n*=48)	46.11	6.28	48.36	6.25	-0.91	2.25
	なし(*n*=93)	47.64	5.93	48.97	6.58		1.33

グローバルビヘイビア

	海外滞在経験	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
積極的質問	あり(*n*=48)	52.73	8.64	53.09	9.43	1.87	0.37
	なし(*n*=93)	51.75	8.69	53.99	8.41		2.23 *
パーティシペイト	あり(*n*=48)	55.42	9.52	58.08	8.01	-2.78	2.66
	なし(*n*=93)	57.86	9.45	57.75	10.47		-0.12
持続力	あり(*n*=48)	49.76	12.63	48.78	11.68	-2.20	-0.98
	なし(*n*=93)	50.53	11.36	47.36	12.97		-3.17 *
評価の受容	あり(*n*=48)	44.70	7.37	47.08	9.46	-1.72	2.38
	なし(*n*=93)	45.82	7.62	46.48	8.13		0.66
ホスピタリティ	あり(*n*=48)	43.05	8.50	44.62	9.24	-0.87	1.57
	なし(*n*=93)	44.27	8.40	44.97	8.23		0.70
グローバルビヘイビア平均	あり(*n*=48)	49.13	4.26	50.33	3.72	-1.14	1.20
	なし(*n*=93)	50.05	4.29	50.11	4.49		0.06

注:　*は 5%水準で有意であることを示す．留学の効果の差は，海外滞在あり群となし群を比較して，両群の留学の効果が異なるかを調べたものである．

2024 年 7 月 8 日
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

表 6c　海外滞在経験別のディレールメントとストレスの変化

ディレールメント

	海外滞在経験	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
自衛論争性	あり(*n*=48)	38.57	6.32	37.35	8.96	2.35	-1.22
	なし(*n*=93)	36.82	7.43	37.95	7.90		1.12
尊大性	あり(*n*=48)	49.39	6.00	49.64	7.93	1.11	0.25
	なし(*n*=93)	49.21	8.03	50.57	7.86		1.36
完璧性	あり(*n*=48)	39.38	8.83	38.16	8.98	-0.26	-1.22
	なし(*n*=93)	37.88	8.72	36.40	9.71		-1.47
衝動性	あり(*n*=48)	38.21	7.91	37.36	9.66	0.81	-0.85
	なし(*n*=93)	38.88	8.36	38.84	9.66		-0.04
依存性	あり(*n*=48)	46.07	8.61	44.04	8.28	0.65	-2.03
	なし(*n*=93)	45.67	9.25	44.29	10.13		-1.38
回避性	あり(*n*=48)	41.78	7.07	39.57	9.29	0.95	-2.20
	なし(*n*=93)	38.85	8.78	37.59	8.13		-1.25
孤立性	あり(*n*=48)	39.84	9.17	36.43	11.15	2.82	-3.40
	なし(*n*=93)	36.15	11.27	35.57	13.24		-0.59

ストレス

	海外滞在経験	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
ストレス状態	あり(*n*=48)	35.98	5.35	34.75	6.60	1.04	-1.23
	なし(*n*=93)	34.86	4.82	34.67	5.39		-0.19
ストレス耐性力	あり(*n*=48)	52.92	8.11	52.96	9.96	-1.10	0.05
	なし(*n*=93)	54.68	9.45	53.63	10.00		-1.05

注:　留学の効果の差は，海外滞在あり群となし群を比較して，両群の留学の効果が異なるかを調べたものである．

表 6d　海外滞在経験別の行動特性プロフィールの変化

行動特性プロフィール	海外滞在経験	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
認識の傾向							
楽観	あり(*n*=48)	6.06	2.16	5.83	2.10	-0.35	-0.23
	なし(*n*=93)	6.70	2.00	6.11	2.23		-0.58 *
自己効力	あり(*n*=48)	4.23	1.89	4.64	2.20	0.00	0.40
	なし(*n*=93)	4.34	2.00	4.74	2.06		0.40
自律	あり(*n*=48)	4.59	2.17	4.72	1.95	-0.13	0.14
	なし(*n*=93)	4.59	2.07	4.60	2.04		0.00
変化	あり(*n*=48)	4.32	2.16	4.83	2.00	-0.31	0.50
	なし(*n*=93)	4.62	2.00	4.81	1.93		0.19
安定	あり(*n*=48)	5.64	2.16	5.13	2.00	0.31	-0.50
	なし(*n*=93)	5.34	2.00	5.15	1.93		-0.19
関係の傾向							
主張	あり(*n*=48)	5.37	2.07	5.49	2.33	0.57	0.12
	なし(*n*=93)	5.33	2.24	6.01	2.25		0.68 *
柔軟	あり(*n*=48)	5.46	2.30	5.58	2.28	-0.69	0.12
	なし(*n*=93)	5.39	2.21	4.82	2.34		-0.57 *
親和	あり(*n*=48)	3.60	2.17	3.45	2.15	-0.09	-0.15
	なし(*n*=93)	3.35	2.08	3.11	2.02		-0.24
目的	あり(*n*=48)	6.37	2.18	6.52	2.16	0.09	0.15
	なし(*n*=93)	6.61	2.09	6.85	2.03		0.24
懐疑	あり(*n*=48)	4.81	2.21	4.24	2.29	0.36	-0.57
	なし(*n*=93)	4.00	1.93	3.79	1.92		-0.21
対応の傾向							
計画	あり(*n*=48)	5.03	1.68	5.13	1.95	0.30	0.11
	なし(*n*=93)	4.58	2.12	4.99	1.80		0.40
直感	あり(*n*=48)	5.01	1.68	4.91	1.94	-0.29	-0.11
	なし(*n*=93)	5.46	2.12	5.05	1.80		-0.40
発想	あり(*n*=48)	3.13	1.91	3.15	1.87	-0.26	0.01
	なし(*n*=93)	3.21	2.11	2.96	2.15		-0.25
常識	あり(*n*=48)	5.53	2.03	5.30	2.13	0.17	-0.22
	なし(*n*=93)	5.56	2.02	5.51	1.90		-0.05
徹底	あり(*n*=48)	4.35	2.11	4.33	2.14	-0.44	-0.02
	なし(*n*=93)	4.49	2.18	4.03	2.06		-0.46
表現の傾向							
顕示	あり(*n*=48)	6.56	1.73	6.58	1.77	-0.23	0.01
	なし(*n*=93)	6.60	1.95	6.38	2.35		-0.22
集団	あり(*n*=48)	5.56	1.90	6.19	2.31	-0.70	0.64
	なし(*n*=93)	6.21	2.13	6.15	2.21		-0.06
単独	あり(*n*=48)	4.38	1.90	3.75	2.31	0.70	-0.64
	なし(*n*=93)	3.73	2.13	3.79	2.21		0.06
秩序	あり(*n*=48)	5.05	2.01	4.96	1.81	-0.47	-0.09
	なし(*n*=93)	5.51	1.98	4.94	2.35		-0.56
迅速	あり(*n*=48)	4.35	2.22	4.69	2.02	-0.34	0.34
	なし(*n*=93)	4.54	1.94	4.54	2.01		0.00

注:　*は 5%水準で有意であることを示す．留学の効果の差は，海外滞在あり群となし群を比較して，両群の留学の効果が異なるかを調べたものである．

2024 年 7 月 8 日
森有礼高等教育国際流動化機構・国際教育交流センター

表 7　能力向上の目標設定の有無によるコミュニケーション能力の変化

	目標設定	留学前		留学後		留学の効果の差	留学の効果
		M	*SD*	*M*	*SD*		
傾聴力	あり(*n*=20)	42.04	9.26	46.93	7.49	4.02	4.89 *
	なし(*n*=116)	46.56	8.49	47.43	9.14		0.87
共感力	あり(*n*=10)	43.65	10.42	49.83	10.47	6.06	6.18
	なし(*n*=126)	48.30	9.74	48.43	9.52		0.13
受容力	あり(*n*=13)	41.08	9.62	45.98	8.73	4.00	4.90
	なし(*n*=123)	45.37	8.29	46.27	8.43		0.90
自己開示力	あり(*n*=15)	43.50	9.17	44.24	8.66	-0.61	0.74
	なし(*n*=121)	45.14	8.42	46.49	8.41		1.35
主張力	あり(*n*=72)	46.67	11.32	50.90	11.41	2.00	4.24 *
	なし(*n*=64)	51.56	9.72	53.80	11.02		2.24
プレゼンテーション力	あり(*n*=6)	53.76	4.28	51.10	9.73	-5.02	-2.66
	なし(*n*=130)	52.89	9.46	55.25	9.65		2.36 *

注:　*は 5%水準で有意であることを示す．留学の効果の差は，該当能力を目標設定した群としなかった群を比較して，両群の留学の効果が異なるかを調べたものである．